



▼あゆみ学舎で東京大学大学院生らの説明を受ける生徒たち



中高生が若手研究者と地域を散策

なぞとき・こうさてんワークショップ

令和3年12月19日(日) 甲佐高校で、地域を題材に謎解き問題を考えるワークショップが開催され、参加した甲佐の中高生らが街歩きしながら地域の魅力を再確認しました。このワークショップは、甲佐町集落支援員の越智智美さん(大町区)が企画し、あゆみ学舎を運営する地域おこし協力隊の治金わかなさん(大町区)と面田太陽さん(大町区)が協力して開催。人文科学などを専攻する東京大学大学院の若手研究者らを講師に招き、参加者と共に大井手川の流れる街並みや地域に残る神社やお堂といった地域の文化や歴史を感じながら謎解きの題材を収集し、問題作りに取り組みました。

参加した甲佐高生は「いつも何気なく通っていた道で地域の歴史を見つけることができ、改めて甲佐町の魅力に気付きました」と笑顔。越智さんは、取り組みを重ねながら謎解き問題を冊子にまとめる予定です。

えづけSTOP! 鳥獣被害対策

甲佐町鳥獣被害防止対策協議会が先進地視察

令和3年12月15日(水) 鳥獣被害に悩む世持地区の農家らが、効果的な対策で成果を上げている玉海市天水町の上有所集落の取り組みを視察しました。

甲佐町鳥獣被害防止対策協議会(佐藤敏樹会長)が県の支援を活用して実施し、区を挙げて鳥獣被害対策に取り組む世持区(上田一之区長)の農家や町農政課職員ら約10人が参加。果樹園に設置された防護柵やICTを活用した捕獲施設の見学や説明を聞きながら、地域ぐるみでの対策の重要性を学びました。



▲果樹園に張り巡らされた防護柵の説明を受ける参加者



▲三保木事務所長(右)へ要望書を手渡す奥名町長

水害から地域の暮らしを守るために

国土交通省熊本河川国道事務所に要望書を提出

令和3年12月15日(水) 町生涯学習センター・研修室で、本町を貫流する一級河川緑川の管理を行う国土交通省熊本河川国道事務所に対して、河川整備促進などについての町の要望活動を行いました。

町は、主に①堤防の整備、②熊本甲佐総合運動公園・かわまちづくり支援、③船津地区河川防災ステーションの整備促進、④内水対策に伴う排水機場および排水ポンプの整備の支援協力、⑤河川の浚渫および樹木伐採について要望。

奥名克美町長が三保木悦幸熊本河川国道事務所長に要望書を手渡しました。

50代イレブンが全国制覇を目指す

緒方選手（西寒野区）が全国3位に貢献

令和3年11月27日（土）～29日（月）栃木県で開催された第20回全日本O-50サッカー大会に緒方浩典選手（西寒野区）が参加し、チームの全国3位に貢献しました。

緒方選手はKUMAMOTO肥後シニアのミッドフィルダーとして2試合に出場。チームは予選リーグを1位通過。決勝ラウンドで兵庫県代表に0対1で惜敗し、全国ベスト4に輝きました。大会を終えて緒方選手は「何歳になっても高いレベルで勝負できるのは楽しい。挑戦し続けたい」と語りました。



▲全国3位に貢献したKUMAMOTO肥後シニアの緒方選手



▲辞令書を受け取ったバルーシさん（中央）

ようこそバルーシ先生

新しいALT（外国語指導助手）が着任

令和3年12月14日（火）教育長室で、ALT（外国語指導助手）として着任したバルーシさんに辞令書が手渡されました。ALTは町教育委員会に所属し、主に町内小・中学校の英語教育を支援するもので、各小・中学校の英語の授業に参加し、担当教員を補佐。異文化理解のきっかけづくりにも取り組まれます。

イギリス生まれのバルーシさんは26歳。子どもたちに英語を学ぶ楽しさや海外の文化などを伝えたいとALTを志望。妻のレベツカさん（写真右）とともに「熊本や甲佐での暮らしを楽しみたい」と笑顔で話しました。

書道で九州と全国の舞台へ

御船高校の坂井さん（西寒野区）・植田さん（船津区）



▲全九州高校総文祭長崎大会の席上揮毫大会で優秀賞を受賞した坂井さん（左）と熊本県高校書道展で最優秀賞に輝いた植田さん

令和3年12月10日（金）～12日（日）長崎県で開催された第5回全九州高等学校総合文化祭長崎大会の書道部門・席上揮毫大会で、坂井心さん（御船高校2年・西寒野区）が優秀賞に輝きました。

同大会は、九州各地の県大会で優秀な成績を修めた代表者80人が出場。2時間の制限時間内に与えられた課題を揮毫し、その優劣を競いました。坂井さんは「初めての九州大会で緊張したけど、いつもの筆さばきを発揮できた。これからも鍛錬を怠らず、上を目指したい」と抱負を語りました。

令和3年12月14日（火）～19日（日）に開催された第57回熊本県高等学校書道展では、植田真唯子さん（御船高校2年・船津区）が最優秀賞を受賞。今年8月に開催される第46回全国高等学校総合文化祭東京大会への切符を手に入れました。

自身の作品を額装して出品するこの書道展で県代表を勝ち取った植田さんは「この受賞は切磋琢磨した書道部のみんなとの時間があったから。全国大会に向けて自分らしい書を突き詰めたい」と笑顔を見せました。